

“内から外から究極の癒しと美を” 美容と健康通信

2023年春 特別増刊号

平素、皆様からは多大なるご愛顧をいただき感謝に堪えません。この度は、皆様に大変悲しく残念なお知らせをしなければならず、特別に増刊号を発行いたしました。私共の敬愛する丹羽博士への追悼の記をお読みいただければ幸いです。

フォンプランタ 美和子

2022年9月18日、私の心から敬愛する丹羽博士が天国に召されました。

丹羽博士は活性酸素の世界的権威者であり、SOD 様作用食品と天然の生薬の数々を研究開発され、丹羽免疫研究所の所長であり、土佐清水病院院長として、日夜休まれることなく医療の現場で癌、アトピー性皮膚炎、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にその一生を捧げて来られました。

丹羽先生は、子供の頃は非常に体が弱く、お手伝さんにおんぶされて学校に通っていたほどで、学校にはほとんど行けなかったため、大好きな動物達が友達でした。丹羽先生の著者には、ご自身が愛して来られたペット達の名前が随所に登場してきます。

丹羽博士は京都大学医学部を卒業し医学博士を取得され、その後、活性酸素と SOD（スーパー・オキシサイド・ディスムターゼ (super oxide dismutase) 「活性酸素を除去する酵素」）の研究に取り組み、日本ではもちろん、海外でも活性酸素の権威者として SOD などの生体防御の研究論文を著名英文国際医学誌に継続して発表され、その数は60編を越しております。

丹羽博士の数々の著書や論文を読んで、私が丹羽療法を知ったのは約18年以上前。その時には、私の人生にこれほど大きな影響を与えるとは思っていませんでした。



J. Niwa

Nov. 6th. 2007.

神は自然の恵みの法に
全ての良薬を与え給ふ。

薬学を学んだ私にとって、丹羽先生の癌治療をはじめ、膠原病などの難病疾患の治療においても、膨大な経験と知識を持たれる非常に優れた医師であることが理解できました。そして、何より感銘を受けたのが、何よりも患者さんのために尽くすことを第一にしておられるお姿でした。その後、先生と懇意にさせて



させていただく中、裏表がなく真っ直ぐで正直、嘘がなく個人的な利益は全く優先されず、それゆえに時には厳しい事もハッキリ口にされるけれど、その根底にはどこまでも優しく大きな愛情が横たわる、そんな先生のお人柄に私は心から惹かれ、私が知る中で最も信頼できる人物のお一人でした。

又、私自身は子供の頃から虚弱体質でいつも病院に通い、長年の偏頭痛とアレルギーや花粉症に悩んでおりましたが、丹羽先生のSOD様作用食品ですっかり改善しました。そして過去15年間私は医者に行った事はありません。

丹羽療法が生まれたきっかけ、それは、先生の愛する8歳の息子さん剛士君を白血病

で失った事からでした。“丹羽療法と医者の心は、白血病で抗がん剤の副作用による壮絶な生き地獄の苦しみの中で亡くなった7歳の長男剛士が、自分の命と引き換えにして私に架けてくれた十字架”

ご自身の息子に施した最高水準と言われる治療を施した挙句に、この世とも思えない壮絶な苦しみの中で死なせてしまった事に、先生はすっかり落胆してしまい、医者である事の空しさを感じて、医者を止めてしようとも思われたほどでした。

国際学会の招待講演を受け、国際の一流の雑誌に60以上の研究論文を書き、医学の粋を究めた医師であるのに関わらず、自分は剛士君の命を救えなかった…。

先生の後悔と懺悔の心が丹羽博士の「白血病の息子が教えてくれた医者の心」をはじめ、その他多くの著書の中に記されています。

「抗がん剤の副作用で我が子が苦しみ抜くという、この世の凄惨な地獄を体験しました。医師として、父親として、血の通った人間として味わった息子との死別の悲しみ。特に末期のがんに苦しみ抜いた我が子の体験から、患者側に立たされて初めてわかったこと、後悔の念。過去、同じ運命で同様に苦しみ悲しんで亡くなられた患者さんとその肉親の方々へ申し訳ないことをしたという深い懺悔の心を理解していただければと思います。私には超能力もなければテレパシーもありません。私にできることは我が子が病気で苦しみ抜いたような悲しみが、なんとかこの世でなくなるように努力するだけです。日曜祭日、盆、正月も一切捨てて、難病やがんの研究に取り

組むことによって、息子が副作用で苦しんだ恐ろしい化学薬品ではない、副作用のない天然の生薬の開発を進める事と、患者さんの心になって行う日常の診療だけです。」

「漢方、健康食品は副作用は無い。ただ何にも効かない。これも人を救わんのじゃ。と言って私は抗癌剤だけは嫌だった。しかし、漢方的なもので、もうちょっといい自然の治療法は無いか。無かったらどうやったらそういうもの出来るだろう？」



先生は、ご自身の病院が破産するほどの莫大な資金を投資し、20年もの研究の時を費やして、SOD 様作用製剤（SOD 酵素の様に体内で働いて活性酸を除去する製剤）をついに完成させました。

世の中には、SOD と称されて販売されるものも出回っておりますが、それらは、例えば実験室の試験管内で効果を出しても人体の中では働かない、そういったものが多く販売されています。事実、人間の体の中で本当に効果を出す SOD 様作用食品は、この世界の中で唯一、丹羽博士の物だけなのです。

SOD 製剤・SOD 酵素の製造化が難しい理由は、高分子抗酸化剤の為、注射液にしても体内の必要な病巣に到達せず、経口薬にしても胃液で酵素が破壊されて吸収が不可能なことです。その頃フランスパリ物理化学研究所の生化学者ミッケルソン博士(ケンブリッジ大学卒)と丹羽博士が共同で、リポゾーム SOD の製剤化に成功しました。しかし残念な事に、その後のヨーロッパ諸国での牛の伝染病に関する規制により、現在は製造不可能となりました。

丹羽博士はこの経験を土台にして、まったく別のアプローチで SOD 酵素、すなわち活性酸素を除去する酵素と同じ働きをする SOD 様作用食品を開発するに成功しました。



ここで、私事になりますが、過去数年間に渡って、私は癌に悩む顧客や友人達に同行



して、スイスから日本の土佐清水にある丹羽先生の土佐清水病院を訪れました。どの旅行もユニークで特別なものでした。私はお連れ

れた患者さんに付き添って、病院に1か月以上住み込んでいた事もありました。ここでは、丹羽治療に取り組む真剣な治療、同時にスタッフ全員の病気に苦しむ患者さん一人一人に寄り添った、非常に献身的で情熱的な姿勢と愛情あふれる現場を目の当たりにすることができました。

そして、そこを初めて訪れる人は、まず、病棟内で笑い声がよく聞こえることに驚かれます。普通の癌病棟では考えられない事なのです。丹羽療法の癌患者さん達は、たとえその病が深刻な状態でも食欲が旺盛で、談話室で皆と一緒におしゃべりしながら、ニコニコ美味しく食べられるという事にも！ 又、小旅行、お料理教室など患者さんのための楽しいイベントなども企画されていました。

土佐清水病院のインターネットサイト <http://tosashimizu-hospital.com/>で見られますように、先生の患者さん達から送られた数

多くのお手紙を読みますと、先生の治療を頼り感謝されていた方が沢山いらっしゃった事が、よく分かると思います。先生は毎日夜中まで、週7日、年中無休で働き、休日もなく、一度も休んだことがありませんでした。それでも、抗がん剤を否定し代かん医療をする丹羽博士は、日本ではかなり煙たがられて叩かれ、医者仲間からも多くの誹謗・中傷をされました。

が、2012年、丹羽療法が国際癌学会にて、自然療法の分野で世界初の認知を正式にされたのです！ ついに世界が丹羽療法を認めたのでした！

丹羽療法の治療の特徴は、抗がん剤のように苦しまずクオリティー・ライフが保て、しかも延命効果がある事です。しかし、抗がん剤と放射線治療する医学界において、丹羽治療が認められることは困難でした。

そこで丹羽博士は、日本より権威のある、国際がん学会に治療結果の論文を投稿し続け、そうしている中「あなたの論文では確かにあなたの治療は効いている。ほかのがんにも効いているが、とくに肝臓がんが一



番延命効果も高いし、治療効果もあるようです。したがって、全部のがんを論文にまとめるのはやめて、肝臓がんだけに絞って10年間くらいのデータを出したらどうか。」という返事を受け取りました。

そこで、丹羽先生は、10年間分の手術（PEIT、アルコールの高周波注入を含む）のできない進行・末期の肝臓がんのみ101人を取り上げた論文を書き上げ再投稿しました。

外科的ながんを取り除く治療や抗がん剤による外的治療ができない肝がんの延命効果は、世界平均で1年以下です。丹羽先生は、そういった一般には余命1年内のほずである、外科的治療もできない末期肝がん患者さん101人を選び、Child-Pugh Score BCLC 腫瘍ステージ、症状別、がんの進行度別に細かく分類し、丹羽療法の10種類以上の薬の投薬や治療法でいろいろな組み合わせを作り、それぞれどういう組み合わせによってどれだけ延命できたかを計算し、世界の肝がん患者のそれぞれの分類別延命期間と比較するという論文を発表しました。

その結果、丹羽療法の治療内容によって延命期間が変わるのですが、患者さん全員の平均延命が35.5ヵ月、高価な生薬との組み合わせで、55.7ヵ月の延命。

さらに冬虫夏草（とうちゅうかそう）などの高貴薬を入れたり、天照石のサンドバス入浴療法や、強肝剤、ビタミン製剤などの点滴を毎日行う最高の治療をした患者さんは75.1ヵ月という平均延命期間の結果が出ました。これは、世界の平均延命期間が



1年以内であるのに対し、なんとその6倍にあたります。

そんな優れたデータを出した結果、丹羽療法はついに国際がん学会に認められたのでした。

これで、世界で、また日本でも丹羽療法は認められ、誹謗されることはなくなったわけです。が、それでも丹羽先生は、決して慢心することなく、患者さんのために人生を尽くされたのでした。

このように先生は免疫療法の世界的権威というすごい方なのですが、私自身が垣間見たその素顔の一面をここでお話いたしますと、動物、そして相撲が大好きな純粋な方でした。



いつも愛猫の写真を持ち歩いて、私にも何度かその愛猫の写真を嬉しそうに見せて下



さいました。2021年の夏に先生と東京の帝国ホテルでお茶をご一緒した時も、ほとんどのお話は先生の愛猫と犬たちの話でした。先生は何十匹も猫を飼っておられて、猫専用のお部屋とお手伝いさんも備えておられました。その内の猫ちゃんが亡くなった時、先生はもう悲しくて悲しくて、しばらく落ち込んでしまうほどでした。そんな小さな命を愛おしんで大事にされている丹羽先生でした。

また、相撲の後援会にも入っておられて、先生の喜寿の誕生日に先生と病院のスタッフの方と一緒にタクシーで誕生日会場に移動中、元大相撲力士で横綱であった白鷗（はくおう）からお祝いの電話が先生の携帯に入りました。白鷗からのお電話に対して先生が「おーサンキュー。サンキュー」と言われていた事をよく覚えております。



そして、スイスにまたいらっしゃるとも言うていただきました。

…丹羽先生が亡くなられてとても寂しい日々を送っております。丹羽博士、ありがとうございました。そして、先生、長い間お疲れ様でした。天国で息子さんの剛士君と一緒に休んで下さい。私の人生に大きく影響与えて下さり心より感謝致します。



先生の亡くなられる前日9月17日に、スイスの私の家からルツェルン湖に見えた大きな美しい虹は、先生からのお別れの挨拶だったに違いありません。

“神は自然の恵みの内に全ての良薬を与えた給う” 丹羽靱負

